

保育士など職員確保に課題 根室市内の保育園の状況

日本共産党根室市議会議員団(神団長)は無所属の久保田陽議員と一緒に市内の民間保育所および市立保育所をそれぞれ視察・見学しました。

社会福祉法人しらかば保育所は、今年3月に根室市内の別な場所に建て替え移転を行うため、現在工事がすすめられています。移転後は定員を拡大し90名とする予定です。現在60名の定員ですが、今年は途中入所も多く現在82名のお子さんが通っているそうです。

そうした中、現在の運営上の大きな課題として、保育士の人員確保が大変に厳しい状況にあることをお話されていました。

これは根室市全体的に共通する課題で、翌日訪問した市立保育所でも同様の課題を述べられていました。

根室市内にも勤務していない有資格者は多くいるものの、中には子育てや親の介護など様々な事情により、保育園に復帰することが難しい方もいるそうです。

根室市では、市の栄養士が昼食とおやつに分までふくめて各園共通の献立をつくり、各園で、下ごしらえの段階から手作りの調理をおこなっています。

近年は市内でも、アレルギーの子どもが増えてきているとお話でした。

食物アレルギーの子には除去食など個別対応を行います。中には0歳児からアレルギーの子もいます。家族と十分な連絡相談をし

ながら、保育士や調理員が連携をとった対応が行われています。

さらにまた、特別な支援を必要とする子どもが増えてきているとお話でした。個々の子どもの状況に応じて、配置人員を増員するなどの対応が行われています。専門性と合わせて十分な経験も必要な業務だと思います。

限られた人員の中で、こうした様々な対応を求められる保育所の状況について、あらためて教えていただきました。

根室市の場合これまでも、放課後児童教室でも指導員の人材確保に苦慮してきました。

少子化と言われますが、近年の社会状況から子育て支援施設へのニーズは高まっています。しかし一方で、職員の人員確保が厳しい状況もあります。年度初めの体制は充足していても、特に年度途中の臨時保育士の採用はなかなか応募がなく、様々なツテを頼りながら人材を探している状況とのことでした。

また新卒採用では、根室出身の方でも札幌など都会でそのまま就職される場合も多いとの課題もお話されていました。

根室市では2016年12月に「保育所適正配置計画」を策定しました。計画では2018年度末に「ほうりん保育所」を廃止、合わせて落石へき地保育所と「厚床へき地保育所」の通年開所と三歳未満児保育の実施を行うこととしています。

こうした状況のなかで今後、根室市内において将来的にどの程度の保育士等の専門職の人材が必要となるか分析しながら、ニーズに応じた若い人材を積極的に確保していくための、総合的な取り組みを市としても検討することが必要ではないかと考えます。



根室市交通安全計画

2016年度～2020年度(第10次)

根室市では「交通安全計画(案)」を、今年度中の策定をめざして作業を進めています。

これは交通安全対策基本法にもとづく市町村の交通安全に関する施策の大綱で、2016年度から5か年を計画期間としています。

計画案によると、市内における2015年の交通事故死者数は2名で、ピーク時の約1/5に減少しています。今後は交通事故そのものさらなる減少を目指し、2017年～2020年まで「年間の24時間交通事故死者数ゼロ」を、数値目標として掲げています。

市の説明によると、今回の計画では「高齢者および高齢運転者対策」と「飲酒運転根絶対策」について強化・充実を図っています。

また、重点施策として

- ① 高齢化社会を踏まえた総合的な対策
- ② 飲酒運転の根絶
- ③ スピードダウン
- ④ シートベルトの全席着用
- ⑤ 自転車の安全利用
- ⑥ 生活道路における安全確保
- ⑦ 投棄に係る陸上交通の安全

の7項目を明記しており、市民の理解と協力のもと、「諸施策を総合的かつ強力に推進する」としています。

根室市では昨年度から交通共済の財源を活用しながら、自転車用ヘルメットの貸与、チャイルドシートの購入助成、町会の交通安全啓発グッズの支給など新たな取り組みを推進しているところだ。

こうした取り組みをさらに普及宣伝していきながら、私たち市民としても、交通事故を減少させるため日常から意識を高めていきたいと思っています。



母の願いは万国共通

2017年2月20日
衆議院議員 畠山和也

防衛省への要請に、南スーダンPKO派遣差止等訴訟の原告である平和子さんと弁護団とが上京されました。紙智子参議院議員と私とが同席し、自衛隊部隊の即時撤退、問題になっている「日報」の全面的開示などを求めました。

防衛省からは「自衛隊の蓄積を生かした活動が、現地では評価されている」「日報は対外的に明らかにする前提ではない」などの回答。

参加者そろって「現地では戦闘状態ではないか」と厳しく抗議しました。

その後の院内集会で、自衛官の子を持つ平さんが次のように語りました。

「戦争反対と訴えたら社会的にたたかれると覚悟していましたが、そんなことはありませんでした。誰もがお母さんから生まれます。だからこそ、私の訴えを聞いてくれるのでしょうか。母の願いは万国共通なのです」。

胸を熱くしながら聞きました。

19日、札幌大通公園にて「総がかり行動」の集会がおこなわれて私も連帯あいさつ。平さんの言葉を紹介しました。真冬の集会でしたが参加者は600名。心ひとつに全道・全国で行動している力を、さらに強く。さらに広げて。そうすれば安倍政権の暴走は必ず止められます。

国会での論戦も本格化してきました。予算の後には、重要法案の審議が始まります。世論と運動と結んで、しっかり追及していきます。

